

加西市スポーツ推進のための調査研究

— 加西市のスポーツ活動の現状と課題 —

Research report for the Kasai-City Sports Promotion

— The current situations and issues for Kasai-City sports activities —

体育学部体育学科

田原 陽介

TAHARA, Yosuke

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

山本 孔一

YAMAMOTO, Koichi

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

キーワード：住民調査, スポーツ, 地域スポーツクラブ

Abstract : Sporting events in Kasai City have been carried out by the City, Sports Association, Sports Boy Scouts, Kasai Sports Club 21 Liaison Council and Sports Promotion Committee. The City has been achieved health maintenance and promotion, improvement of competitiveness, healthy development of young people through these sporting events. According to the “Citizen Sports Survey” that were conducted in FY 2011 and FY 2012, the percentage of adults have implemented the sport at least once a week in the City was 34.5%, however, the nationwide survey average was about 45.3%.

On the other hand, the sports population decreased. It is because of the occurrences of the following: the declining birth rate; the repolarization of the people who do and do not exercise; and the problems such as sluggish growth of the competition level due to the leader shortage. Furthermore, the efficiency of life with the progress of mechanization has reduced the movement in daily life. At the same time, due to increasing lifestyle related diseases and the reduction of physical strength of children, there are not small number of people who are feeling the anxiety to such health and physical fitness. Especially 40s men, who are facing the stress at work, are complaining the health anxiety caused by lack of exercise.

The sports activities in Kasai-City are not only contributing as a tool to improve health and fitness training programs and competition force of residents, but also promoting the regeneration of the dilutive local communities and an important role in the bright town development. In the future, Kasai-City should enhance its citizens to feel free to conduct sports recreational activities anytime and anywhere, by coping with the changes of the social environment and the diversification of the sports needs of its citizens. Moreover, the City can maintain and promote health of its citizens by striving and spreading the light sports in the region. On the top of that, by providing a lifelong sports society which anyone can feel free to conduct sports activities, the City should create a sports culture which utilize the City’s own characteristic. For its realization, this report has developed a sports promotion plan for Kasai-City.

Keywords : population survey, sports, region

I. はじめに

スポーツは、達成感、爽快感、仲間との一体感などの精神的な充足をもたらすとともに、体力の向上、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進に寄与する。

また、健康維持や体力向上だけでなく、人と人とのコミュニケーションをより豊かにし、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つである。

特に、ライフスタイルの変化等により体を動かす機会が減少することや急激な高齢化の進展が予想される21世紀の社会において、人々が生活の一部にスポーツを取り入れ、生涯にわたってスポーツに親しむことは、生活習慣病の予防や、介護予防など、市民が健康的で明るく充実した生活を送る上で、非常に大きな意義を有すると考えられる。

さらに、スポーツを通じたコミュニティの再生、新たな地域文化やスポーツ文化の創造、スポーツ団体やスポーツイベントを通じた人材育成及び社会体験が不足している青少年に対するスポーツを通じた社会体験や他の年齢層との交流による健全育成の効果などが期待される。

国では、21世紀における明るく豊かで活力ある社会の実現を目指し、スポーツ振興法の規定に基づき、2000（平成12）年9月に文部大臣告示として我が国のスポーツ振興の指針となるスポーツ振興基本計画を策定した。

2001（平成13）年度から2010（平成22）年度の概ね10年間で実現すべき政策目標を設定するとともに、その政策目標を達成するために必要な施策を示し、計画では、「スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上」、「生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実」、「我が国の国際競技力の総合的な向上」を主要な課題として掲げ、その具体化を図ってきた。

その後、2010（平成22）年8月にスポーツ立国戦略が策定され、我が国の「新たなスポーツ文化の確立」を目指し、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」、「連携・協働の推進」を「基本的な考え方」として、それらに導かれる今後概ね10年間で実施すべき5つの重点戦略、政策目標、重点的に実施すべき施策や体制整備の在り方などを示した。

2011（平成23）年6月には、スポーツ振興法を全面改正したスポーツ基本法が公布され、8月24日から施

行され、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、今後、国においては、スポーツ推進会議の設置及びスポーツ基本計画の策定、都道府県及び市町村では、スポーツの推進に関する計画の策定が求められる。

国の計画を参考にして、地方の実情に即したスポーツの振興に関する計画を都道府県において定めることとなっていることから、兵庫県では、スポーツ振興の考え方や取り組みを示すとともに、市町村との役割分担や連携を踏まえながら、県民が生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができるようにするための施策を、効率的かつ効果的に進めるため、「兵庫県スポーツ振興計画（スポーツルネサンス・プラン）」を2001（平成13）年に策定した。計画は、2010（平成22）年度を目標年次とし、基本理念に「豊かなスポーツライフの創造」を掲げ、県民一人ひとりの生活に、スポーツが適切に位置づけられ「いつでも・どこでも・気軽に」だれもが好みに応じていつまでもスポーツが楽しめる豊かなコミュニティ社会の構築を目指す。

本市では、これまで行政によるスポーツイベントのほか、体育協会やスポーツ少年団、加西市スポーツクラブ21連絡協議会、スポーツ推進委員会などを中心に多様なスポーツ活動が展開され、市民の健康保持・増進と競技力の向上、青少年の健全育成、地域の親睦等が図られてきた。

平成23・24年度に実施した「市民スポーツ意識調査」によれば、本市の成人が週1回以上スポーツを実施している割合は34.5%となり、同種の全国的な調査平均約58%を下回っている。

一方、少子化や運動の実施・未実施者の二極化等によるスポーツ人口の減少、指導者不足に伴う競技水準の伸び悩みなど、さまざまな問題も生じています。また、機械化の進展による効率性の高い生活は、日常生活における身体活動を減少させ、生活習慣病の増加や子どもの体力低下を招くなど、健康や体力に不安を感じている人が多い。中でも、働き盛りの40代男性は、仕事でのストレスを抱えながら、運動不足による健康不安を訴えている。

本市のスポーツ活動は、住民の健康・体力づくりや競技力向上を図るツールとしてだけでなく、希薄化する地域コミュニティの再生を図り、活力のある明るいまちづくりに貢献する重要な役割を担っている。

本市では、社会環境の変化と多様化する市民のスポーツニーズに対応し、市民だれもが気軽にスポー

ツ・レクリエーション活動に取り組めるよう活動の機会を充実し、さらに、健康を維持・増進できるよう地域でできる軽スポーツの普及に努め、市民のだれもが『いつでも、どこでも、いつまでも』気軽にスポーツ活動が行える生涯スポーツ社会実現のための環境を整え、本市の特徴を活かしたスポーツ文化を創造するため、その具現化のため、加西市スポーツ推進計画の策定を予定している。本調査は、その推進計画策定のための住民調査として実施されたものである。

II. 調査方法

1. 調査期間

平成24年1月27日～2月3日（平成23年度）

平成24年8月10日～8月31日（平成24年度）

2. 分析期間

平成24年2月6日～3月31日（平成23年度）

平成24年9月14日～12月4日（平成24年度）

3. 調査地域 加西市全域市民

4. 調査対象者 加西市在住20歳以上の男女

5. 調査方法 アンケート調査

(1) 種 別：住民調査

(2) 回答者の選び方：クォータサンプリング（平成23年度）

ランダムサンプリング（平成24年度）

(3) 実施方法：集合（平成23年度）

郵送（平成24年度）

(4) 断 続 性：横断面調査

6. 回収率

(1) 調査対象者：5,800人

(2) 回 収 率：80.2%（回収数：4,653人）

(3) 有効回答数：4,651

*有効回答数に占める地区別回収率（割合）

北 条	11.3%	北条東	8.7%
富 田	7.6%	賀 茂	8.4%
下 里	9.6%	九 会	13.0%
富 合	8.4%	宇 仁	5.5%
日 吉	7.6%	西在田	7.4%
泉	9.8%	無回答	2.7%

III. スポーツの実施状況と課題

1. スポーツの実施状況

(1) スポーツ好嫌度と実施頻度

本計画の策定に際し、実施した市民スポーツ意識調査によると、市民の約60%がスポーツで体を動かすことが「好き」と回答（図1）している。

しかし、週に1日以上スポーツをする人（図2）は、35%ほどしかいない。国の「体力・スポーツに関する世論調査」（平成21年内閣府）では、週1日以上継続的にスポーツを行っている人は、国民の約58%となっています。本市の場合は、国の数値を大幅に下回っている。国が策定をした「スポーツ振興基本計画」（平成13～23年度文部科学省）が目標とした、成人の週1日以上スポーツ実施率50%に程遠い現状である。

スポーツ観戦の好嫌度（図1）を見ると「スポーツをみることは好き」と回答した人が約75%を占めている。「スポーツが嫌い」と回答している人でも、そのうちの約45%は「スポーツをみることは好き」と回答しており、スポーツをすることが嫌いであっても必ずしもスポーツ観戦が嫌いであることにはつながらないと言える。

(2) よく行っているスポーツ

現在行っているスポーツ（図3）を見ると「散歩（ウォーキング）」「軽い体操」「ジョギング・ランニング」

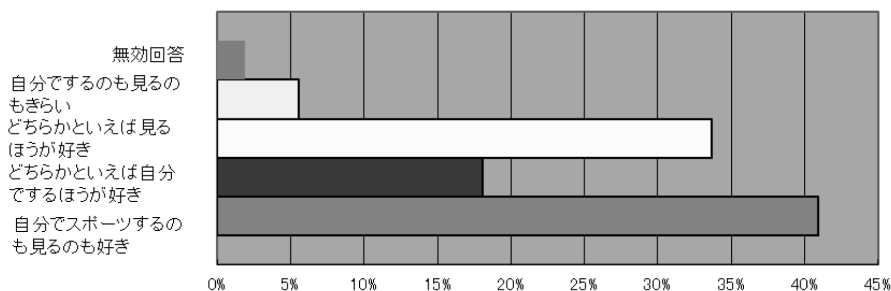


図1 運動やスポーツが好きですか

グ」「ゴルフ」「バレーボール」「野球」等が上位を占め、健康・体力づくりに有効な「散歩（ウォーキング）」への取り組みが市内のあちこちで見られ、一つのブームとなり仲間同士の交流の機会にもなっている。

(3) 今後行いたいスポーツ

今後行いたい、もしくは続けていきたいスポーツ(図4)を見ると「テニス」「バレーボール」「ゴルフ」「散歩（ウォーキング）」「ジョギング・ランニング」「水泳」「ヨガ」「軽い体操」など、友人・仲間などの少人数や個人で楽しむことができるスポーツの希望が多く、あわせて健康づくりや体力づくりにも目を向けた種目が人気となっている。

(4) スポーツを行う時の障害

スポーツを行おうとする時に障害（さまたげ）になること(図5)は、「仕事、家事・育児が忙しい」「体力に自信がない」「費用がかかる」「スポーツ施設が少ない」といった項目が上位を占めている。

2. スポーツの実施状況から見る課題

以上のことから考えられる課題として、運動やスポーツをしたいのに、仕事や家事・育児が忙しくて始めるきっかけがないと考えている人たちにいかにしてその機会を与えるか、どのようにスポーツとの出会いを設定するかが大切である。

特に「散歩（ウォーキング）」や「ジョギング・ラ

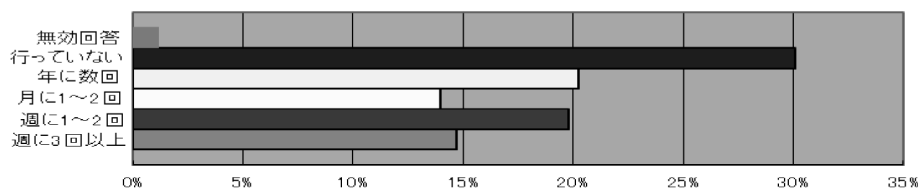


図2 過去1年間にスポーツ活動をどの程度おこないましたか

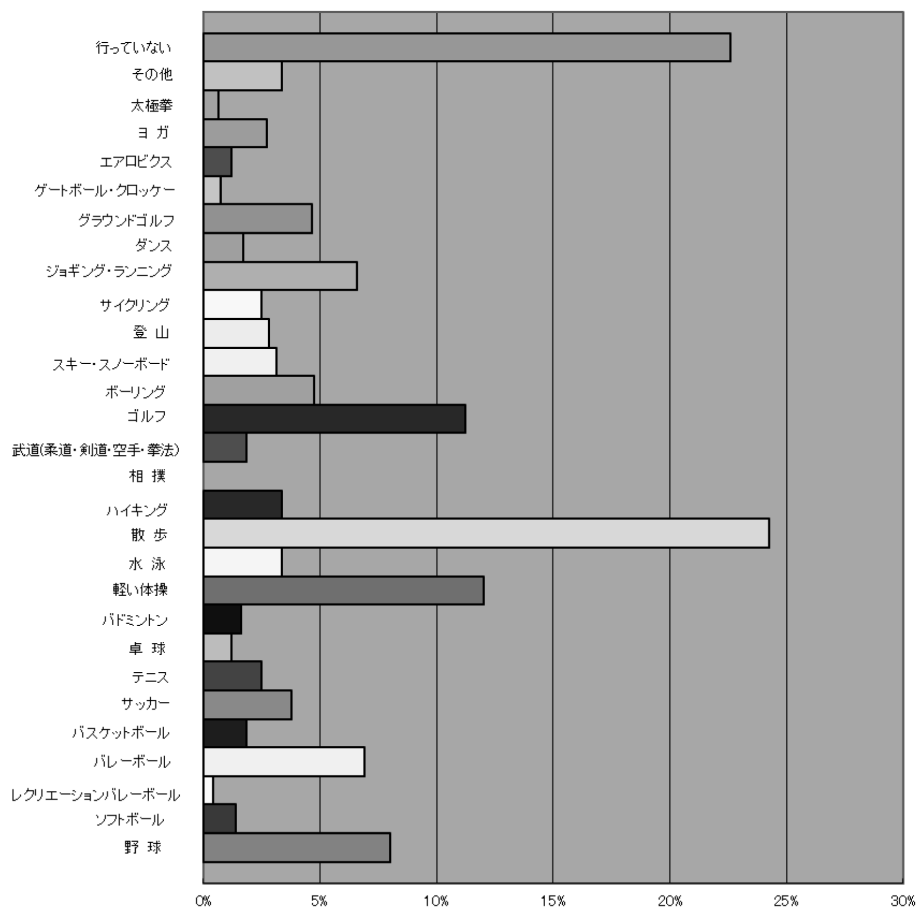


図3 過去1年間によく行ったスポーツの種類

ンニング」などは、個人や少人数で、家から一歩出ればすぐに始めることができるスポーツです。また、身近な公園施設・商業施設・広場・道路などでも気軽に行うことができる。

このような安全・安心でいつでもどこでもできる楽しいスポーツ事業の展開や環境づくりを促進し、スポーツを行う人が増え、国が目標とした「成人の週1日以上スポーツ実施率50%」に近づけていく必要がある。

また、「自らがする」だけがスポーツではなく、スポーツを「みて楽しむ」こともスポーツの一つである

と考えられます。市内での市民のスポーツ観戦率を高めるためにも、市民が気軽にスポーツをみて楽しめる事業の展開、環境づくりが必要となってくる。

IV. スポーツ事業への参加とスポーツ情報の現状と課題

1. スポーツ事業への参加の現状

(1) 加西市の主なスポーツ事業

市では年間を通じて、様々なスポーツ事業を行っている。教育委員会が主催となって行う事業の他に、ス

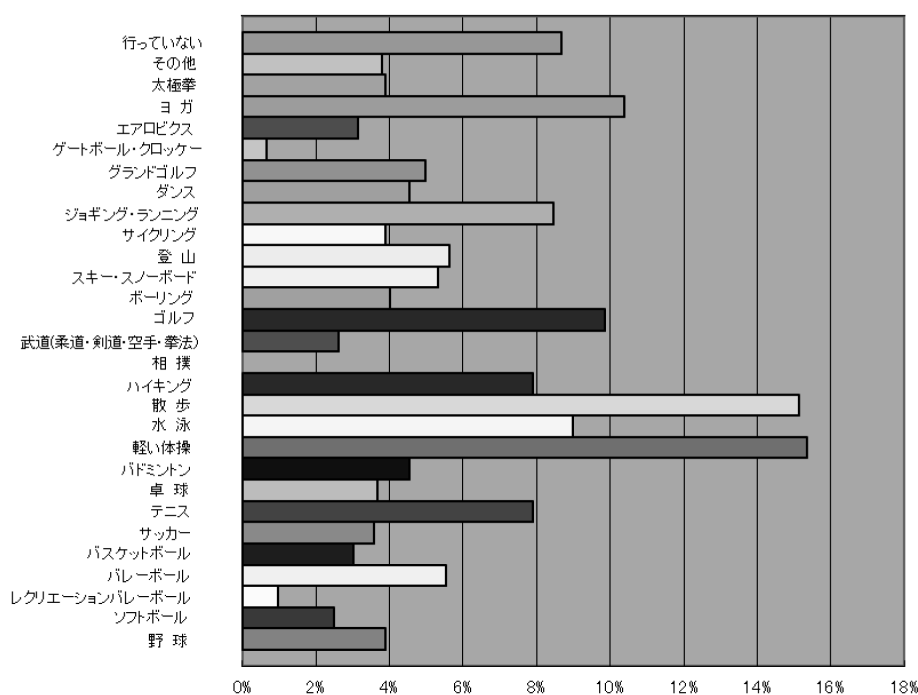


図4 今後どのようなスポーツを行ってみたいですか

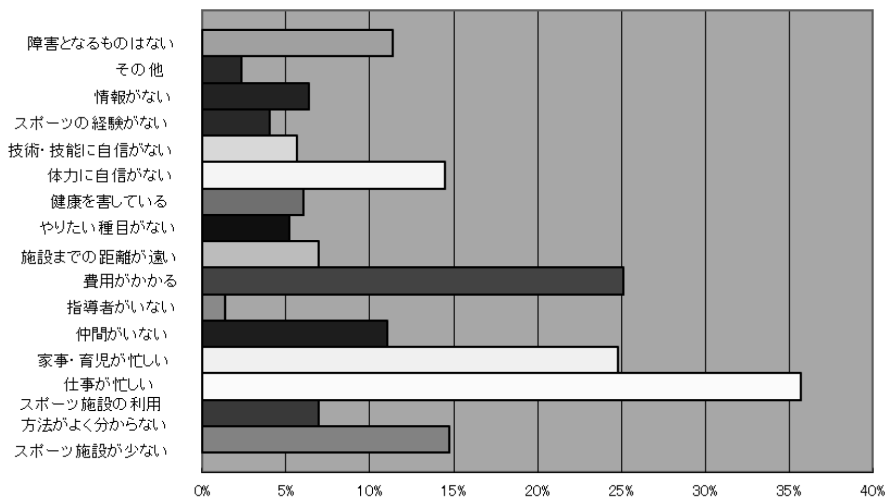


図5 スポーツを行おうとするときに障害になることはなんですか

スポーツ推進委員会、体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブ21連絡協議会等の団体がスポーツの普及・振興のための活動を積極的に実施している。

体育協会主催事業（教育委員会共催）としては、「町親善ソフトボール大会」「市体育大会」「ロマンの里ウォーキング」等を開催し、市民のためのスポーツ推進に寄与している。中でも、「市体育大会」は平成25年度で第46回を迎え、市民にも広く知られている大会となっている。

また、各小学校区選出のスポーツ活動のリーダーであるスポーツ推進委員が中心となって実施している「ショートテニス教室」は、普段スポーツをする機会がない人々にスポーツを通じて生き生きとした人間関係を築く絶好の場となっている。さらに、近年盛んに行われている「ニュースポーツ」の楽しさや良さを知ってもらう場ともなっている。

(2) スポーツ行事への参加

地域のスポーツ行事への参加（図6）について見ると「よく参加している」が約13%、「ときどき参加している」が約27%、「あまり参加していない」が約15%、残りの約45%の人が「参加していない」と答えている。

(3) スポーツ行政への希望

スポーツ行政への希望（図7）では、約40%の人が「スポーツ施設の充実」、約20%の人が「スポーツ教室の開催」、「スポーツ指導者の育成」、「スポーツイベント・教室の開催」と答えており、多くの人が自らのライフステージや自分にあったスポーツに取り組んでいきたいと考えている。

2. スポーツ情報の現状

スポーツをしてみたいと思っている人にとって、ど

表1 加西市の主なスポーツ事業

主催団体	事業名	事業概要	参加者数(人)		
			平成22年度	平成23年度	平成24年度
教育委員会 体育協会	町親善ソフトボール大会	市内各町の親睦をはかり、成人の体力づくりと地域スポーツの振興を目的として、アラジンスタジアム・アクアスカイ・ぜんぼうグリーンパーク、学校体育館・武道館・グラウンドで大会を開催。	547	288	509
	市体育大会	市民の健やかな体と豊かな心づくりをめざし、市内各体育施設会場で15種目のスポーツ大会を開催。	3,201	2,475	2,569
	加西ロマンの里ウォーキング	豊かな自然と歴史あふれる加西の良さを再確認しながら、健康づくり・体力づくりを図ることを目的として毎年3月に開催。	雨天のため中止	390	318
体育協会	体育表彰	本市のスポーツ振興に貢献した人を表彰。	6	3	7
教育委員会 スポーツ推進委員会	ショートテニス教室	スポーツ参加意識の向上を課題とし、「気軽に運動やスポーツに参加できるきっかけづくり」をテーマとして年4～10回開催。	—	—	68
スポーツ少年団	スポーツ少年団のつどい	レクリエーション・スポーツを通じて、団同士の交流を図ることを目的として開催。	534	487	435
教育委員会 指定管理者 指定管理者 自主事業	卓球教室		466	426	1,441
	ウォーキング法講習会		43	41	40
	グラウンド・ゴルフ大会		—	149	—
	ゲートボール大会		—	—	120

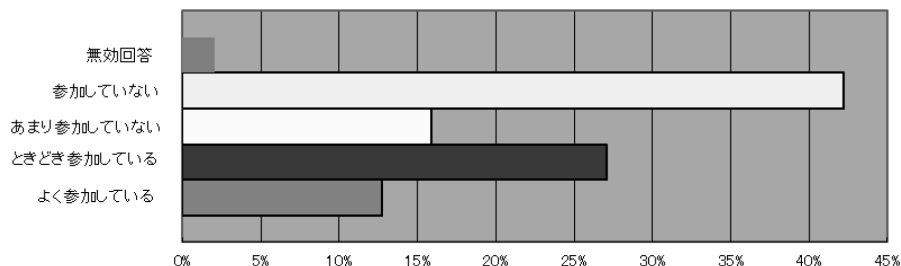


図6 地域のスポーツにどの程度参加しましたか

こに行けばいいのか、どんな教室や講習会があるのか、そしてどんな団体がどんな活動をしているのか等、情報を得ることは大切なことである。スポーツ行事予定や教室の募集案内等は、市広報を通じて市民に周知している。

また、市ホームページや町内会回覧等でも周知を行っているが、図7を見ると、市民の約20%が「もっと情報提供を行ってほしい」と回答をし、市民へ情報があまり伝わっていない状況が明らかになっている。

3. スポーツ事業への参加とスポーツ情報の現状からみる課題

体育協会主催（教育委員会共催）行事の一つである「市体育大会」は、毎年2,000人以上の参加により盛大に行われている反面、少子高齢化が進行するなかで競技人口が減少している種目も出てきており、より多くの市民が参加しやすいような工夫や見直しが必要である。

事業を企画する場合、レクリエーションやニュースポーツなど、誰もが気軽に参加できる大会やイベント等の事業を展開し、参加者が興味・関心を示す内容を工夫しながら提供していくことが大切であると考えられる。そして、何よりもより多くの人に知ってもらうための情報提供の方法も大きな課題である。

V. まとめ

スポーツが健康に良いことは誰もが承知しているところである。しかしながら、仲間がいない、道具がない、時間がない、きっかけがないなどの理由からスポーツに取り組めない人たちが多くいる。また、気軽にできることがスポーツとの出会いにおいては大切である。そして、少しでも多くの人にその楽しさを体感してもらうことが重要である。

そのためには、今までスポーツに親しみのない人やスポーツをするきっかけがなかった人が、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを行い、スポーツ人口の拡大、スポーツ実施率の向上を目指していかなければならない。

スポーツ活動に対する市民のニーズは多様化しており、今後は、ニーズを反映したスポーツイベント・大会やスポーツ教室をこれまで以上に充実し、スポーツ活動が健康づくりに繋がることも視野に入れて、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ活動ができるようスポーツへの参加機会を拡大していくことも急務である。

最近のスポーツイベントにおける特徴は、従来の「プレーする」「みる」に加えて「指導者やボランティアとして運営に参加する」という概念が出てきた。

本市で開催されているスポーツ大会は多くのボラン

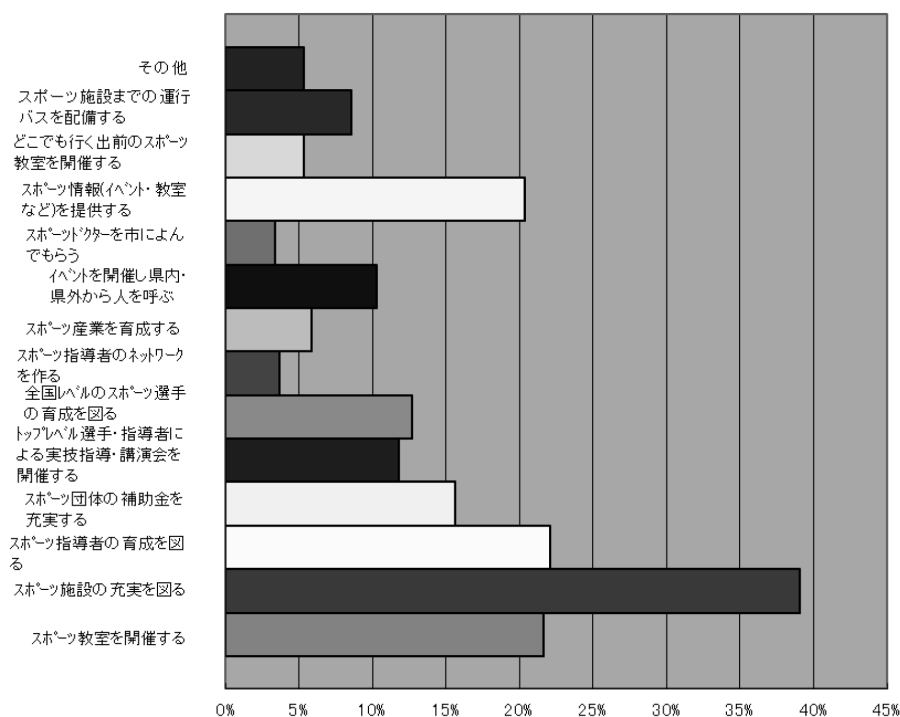


図7 加西市のスポーツ行政に何を望みますか

ティアの人たちに支えられて運営されている。多くの市民にボランティアの重要性とスポーツイベントに参加できる楽しさを知ってもらい、市民のボランティア参加の呼びかけを広く展開する。

新たにスポーツを始めようとする人にとって、質の高い指導ができる指導者の存在は、その後のスポーツ活動に大きく影響し、スポーツとのよりよい出会いを演出し、そのスポーツを続けたいという気持ちにさせることが、指導者の役割の一つであると考えられる。

市民のスポーツ活動のニーズは多種多様化している。しかし、実際のスポーツ活動の場においては、身近な地域に適切な指導者の不在、指導者の存在が市民に十分紹介されていない場合が多く見られる。

スポーツ人口を高めていくには、高度な技術指導も大切なことであるが、それ以上にスポーツの楽しさを体感させてくれるような指導者やそれを支えるボランティアの存在が必要である。

引用参考文献

- 兵庫県教育委員会（2001）、兵庫県生涯スポーツ振興計画
- 文部科学省（2001）、スポーツ振興基本計画
- 文部科学省（2010）、スポーツ立国戦略